



TITLE:

京都大学瀬戸臨海実験所振興会水族館月報 No. 66

AUTHOR(S):

CITATION:

京都大学瀬戸臨海実験所振興会水族館月報 No. 66. 京都大学瀬戸臨海実験所振興会水族館月報 1958, 66: 67-73

ISSUE DATE:

1958-03-05

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/186801>

RIGHT:

京都大学瀬戸臨海実験所振興會

水族館月報

No. 66

1958. 2月 (3月5日)

録 事

年頭より着手した駐員宿舍の工事は順調に進行中である。2月1日、京都より山本和夫氏(京大技術課長)を招き、建築工事の中向検査をしてもらうと共に、浴室、かまどの形状、タイル、テックス、壁仕上げ、ペンキの色等の細部を見本により検討の上、決定した。22日には、藤本尚氏(京大技術課)に御出でを願って、配電工事の検査を行うと共に、工事上の僅かな変更を指示した。月末には廊下の板も張られ、水道管も引かれて、大体の恰好はついた状況である。

2月7日、近畿財務局管財部次長蔵部清、全管財部総務係長小池新造、全国有財産鑑定官岩本節、和歌山財務部長萩原謙の4氏が来所され、実験所と振興会との関係、振興会の性格、水族館の運営等につき説明を求められたので、京都大学側より列席した本田会計課長(監事)、石本管理部長、宮地実験所長(会長)3氏及び現地実験所員より詳細な報告をなすと共に、一同は各施設を見学の後、白浜観光ホテルで懇談した。

この機会を利用して、本田課長・石本掛長及び実験所側内海(季貢)の3名は8日午前所役場を訪れ、南町長・原水道課長と会い、既報の構内上水道の管轄について懇談した。その結果、構内の全工事は全部大学側の負担することに了解なり、全日帰庁された。

これが上水道の構内支線の工事の下検分や後述の災害復旧工事の入れ立合のため、20日来所した生駒事務長(監事)は、22日岩城町助役(監事)・榎本番所山植物園長と会見し、昨年来未解決のままであった上水道敷設費の分担金の問題について協議した。その結果、町側より提示された100万円の中、大学側70万円、番所山植物園25万円を負担することに円満了解がついた。よって24日振興会より金14万74円を校費支出以外の分担金として町金庫に納付を終った。

昨早8月の台風7号によって甚大な被害をうけた海水取入施設(月報 No. 61 参照)の全面的改修計画の要求が幸いにも文部省の災害復旧工事として容れられることになった。このため2月22日京大技術課谷元知道事務室、服部鶴男技官及び理学部生駒事務長立会の下に、和歌山・白浜の7業者の競走入札が行われ、結局金118万円で地元大阪組の手に落ちた。

明光バス会社販扱の観光券の未回収金は2月20日現在で約350万円の多額に達し、現行の契約条項のままでは来年度以降の連帯も解約せざるを得ない状態に立ち到つたので、2月21日生駒監事、浦委員、内海委員、榎本植物園長の4名は明光本社を訪れ、榎本常務と会見し、未納金の全額早年内完済と契約条項の改正を申入れた。席上榎本常務は当方の要請を全面的に受諾し、3月上旬に未納分を完済することを確約した。

宮地会長並びに山路委員の両名は博物館法に基づく学芸員に無試験合格した旨、1月23日官報で公示された。

1月13日、新庁舎を得て新たに発足した大阪市立自然科学博物館の開館式が行われた。宮地会長は全開館式に列席し、時間委員は祝電を發し、偉館の発展を祝福した。



業 務 概 況

◎ 2月の入場者数

区 分	水族館発売数		明光バス発売数		合 計	
	本月分計	累 計	本月分計	累 計	本月分計	累 計
大 人	7322	78336	16115	167847	23507	246183
小 人	165	6432	110	4541	275	10973
団 体	11913	124692			11913	124692
合 計	19470	209460	16225	172388	35695	381848
無料入場者	国鉄旅客主任会議参加者		95名		95	1248
団 体	一般		146組		学生	0組
					計	146組

◎ 2月の事業収入

(今年度累計)

観覧券売上金	669,709	7,007,010
予金積立金利息	—	366,000
雑 収 入	95	2,010
魚 菜 押 下	—	19,300
計	669,804	7,394,320

◎ 2月の支出

水族館経費

費 目	金 額	累 計	備 考
人 件 費	82,571	923,330	
会 議 費	—	71,078	
備 品 費	—	65,250	
消 耗 費	10,680	131,271	ポストカード印刷代他
車 費	83,447	638,153	
維持 費	1,625	209,477	
其 他 諸 経 費	12,826	250,216	接待費他
積 立 金	136,942	1,432,490	
合 計	328,091	3,721,265	

実験所経費

費 目	金 額	累 計	備 考
研 究 費	50,000	120,000	宮地内海・時岡・山路委員
奨 学 金	8,000	81,000	
備 品 費	27,560	312,259	万能製図機他
消 耗 費	—	25,400	
刊 行 費	165,940	393,735	Publ. vol. 6 no.2
役 務 費	—	130,000	
合 計	251,600	1,062,394	

博物館経費

費 目	金 額	累 計	備 考
人 件 費	18,200	258,471	
備 品 費	4,300	287,930	カラースライド2集
消 耗 費	—	7,110	
役 務 費	—	18,660	
合 計	22,500	572,171	

臨時費

施 工	金 額	累 計	備 考
町水道施設工事分担金	147,000	803,254	
合 計	147,000	803,254	

支出合計

(今年度累計)

水族館経費	328,091	3,721,265
実験所経費	251,600	1,062,394
博物館経費	22,500	572,171
臨時費	147,000	803,254
計	749,191	6,159,084

◎ 2月の現在高

前月からの繰越 3,690,735
 今月の収入合計 669,804
 今月の支出合計 749,191
 現 在 高 3,611,348

◎ 前年度との比較

	1957	1958	増	減
入 場 者 数	38689	35695	-	2994
売 上 金	716899	669,709	-	47,190
支 出 金	456,693	749,191	+	292,498

水族館記事

- ◎ 今月も興味はかなり豊富に入槽した。
- ◎ エビスダイが3日に1匹、7日に5匹入槽して、水槽はいよいよ春らしい色彩を加えてきた。
- ◎ ルリハタは6日と8日に1匹ずつ死亡。
- ◎ 8, 15, 24 日とシオ3匹が入槽、14, 27 日に2匹死亡。
- ◎ 9, 26日に1匹ずつモンダゴ入槽、25日1匹死亡。
- ◎ 13日残る1匹もついに死亡して、今年もアカウミガメの仔の越冬には成功しなかった。
- ◎ 14日3貫目程のウシエイ1匹が入槽したが、24日死亡した。
- ◎ マダゴが各1匹、15, 24 日に入槽し、5, 17日に2匹死亡。
- ◎ 23日ネコザメ1匹入槽。
- ◎ 24日ハマチ3匹入槽。
- ◎ オオセの仔1匹は28日死亡した。他の8匹は健在。

博 物 館 記 事

- ◎ 2月22日串本町出雲小学校の御好意により山本虎夫氏を通じて、アラワラ海産の
ネジレカラマツ (全長4.35m) と クシヤキ (新稿) (全長70cm, 最大巾90cm)
 の見事な標本2点が寄贈された。

資 料

- ◎ 2月の気象 (9時観測)
 南水槽室 (水温比重はNo. 25水槽)

	上 旬	中 旬	下 旬
晴天日数 (19)	6	8	5
室 温 (°C)	$\frac{13.6 \sim 9.2}{10.9}$	$\frac{12.3 \sim 7.5}{9.8}$	$\frac{15.0 \sim 10.0}{13.1}$
水 温 (°C)	$\frac{13.37 \sim 14.37}{13.99}$	$\frac{14.94 \sim 12.55}{13.72}$	$\frac{16.48 \sim 13.87}{15.55}$
比 重 (g/l)	$\frac{25.72 \sim 24.80}{25.47}$	$\frac{25.67 \sim 25.17}{25.50}$	$\frac{25.98 \sim 25.54}{25.69}$

取入口

水 温 (°C)	$\frac{16.00 \sim 13.45}{14.52}$	$\frac{16.83 \sim 13.37}{14.38}$	$\frac{17.57 \sim 14.86}{16.38}$
比 重 (g/l)	$\frac{25.79 \sim 25.45}{25.60}$	$\frac{25.97 \sim 25.51}{25.74}$	$\frac{26.22 \sim 25.58}{25.85}$

来 訪 録

2月25日 松原喜代松 (京大水産学教授), 楠本理一 (近大臨海実験所), 荒賀忠一
 (みさき公園自然水族館) の3氏はみさき公園に新たに設けられた京大水産学教室
 の実験室用に魚類標本収集のため来館された。

2月26日 京都府庁管財事業課白波瀬静子, 太田喜久子の両氏はこのほど接收解除さ
 れた京都市下鴨植物園の運営参考資料収集のため来館された。

昭和33年2月5日 (No.66)

編集者
発行者

内海 富士夫

発行所

瀬戸内海実験所振興会
和可山県 白浜町
瀬戸内海実験所内
(Tel. 白浜温泉 515)